



十二月十九日

今日は第三日目の授業だ。朝食後少し足跡に當  
つて、四五年で、長ぐつや雨ぐつを持つてゐる人は、  
喜門先生といつしよに、廣瀬村のほむりさんのお  
うちへ、わうぎんなんを**取り**に行った。全部で十  
五人だった。また雪もあまりとけてゐないで、そん  
なに歩きたくなかった。途中で五人位づつ喜門  
先生といつしよに車に網をつけた引いた。  
一本松を通りこして、しばらく行った所で車を止  
めた。さうして、畠道を傳つて、ほむりさんのおう  
ちへ行った。あまり人が通りなないので道がつい  
ておなかつた。わうぎんなんを脇むらから二束づつ運ん  
だ。ぎんなんも上に乗せて  
又もとの道を引き返し  
た。歸ると、四時間目の  
始まる所だった。晝食  
は岩丸先生のお土産の



に當  
人は  
のあ  
でん  
そん  
書門

おう  
つい  
選ん  
を止

午後はストロブに當てぬた。夕食は岩  
生のぜんぐい祝ひで、いかや、さといもの煮  
付けだ。夜は高島さんと先生にいたり  
生徒にいたりして、地理のしけんをした。

十二月二十日

あきだう

今日は私のおたん生日だ。朝食後五六年で  
長ぐつを持ってゐる人は、甘學校の前からも  
みがらをたはうに入れて二回運んだ。一回の  
人もあった。それを今度長ぐつを持ってゐた  
いんが、大根をどかして、もみがらをしてたりし  
て冬仕度をした。私は二回運んで、すぐ図書  
館に行って火鉢に當た。しばらくするとめん  
な歸つて来たので、すぐ地  
理の考査をした。ちうども  
して行かぬが、たのめ出で  
てんでこまひしてとまった。  
午後は昨日のやうにスト  
ロブに當って日記を書い  
たり、本を見せていたいた  
た。夕食の時、のりさいた  
だいた。先生がこれはこの間よりと

35





しまったのでいくら位かと思った。  
夜考査をかへしていたいた。75点だった。今度は  
もっとがんばらうと思った。

十二月二十一日

朝食の時こちり入来て始めてのこりやんをいたた  
いた。又米川の時は沢山は、お前をこはし体重が  
へたため、今度はよくめんでいたいた。おたくあん  
もめづらしくあった。唐地先生が今日の予定をす  
やった。三部六年が東太美、野榮取りに行き戻り  
の六年が太根をぬいて、北を五年が運ぶのだった。  
丁度その時雨が降り出したので、午前中の授業を  
して晴れした。このことになった。さうして二時間目は  
國語の考査をした。解とくがなふり書取だった。  
その中でも昭憲皇太后御歌の解しやくだった。  
國史は平家の勢が藤原のやうになったといふ  
ところをお習ひした。晝食後午前中出末な  
った作業をした。私達は車を引いて行った。少したぎ  
尺に當ってわたが大根を束ねて車に乗せた。  
喜門先生が、これは子供が作ったから小さいのだよ  
大人が作ったらもっと大きくなっただらう。とあし  
ったのでおかしかった。又ぼつぼつ雨が降り出した。  
車を引いて學校へ行き、炊事場へ運んだ。北の  
山ぎの塩漬を西尾寮へ運んで寮へ歸った。

それになつた。先生が御らに疲  
國語  
さんめ  
この間  
た。あ  
をして  
んでお  
果をき  
お書け  
煮つけ  
するの  
學校の







よ、冬至のおかげです。とおっしゃったのでおめく  
なした。先生方もみんなお笑ひになつた。

午後は寮で福代衣のお

便りを書いたり日記をオイシイ

ついたりして三時に学校

へ行ってストープに當つておアマイ

た。岩丸先生が半紙と小

刀を持って来ておくれと

おっしゃったのですぐ本田

寮へ走って行った。

今日はいつもよりお食事が三十分早いので、久松  
本さんだけぽつんとこたつに當つてゐた。

近藤先生といつしよに行つた。さうして今日の晩の

ことを教へて下さつた。それは千柿だつた。夕食は

料理屋でいただいた。お食後に近藤先生が自分

でお作りになつた千柿をいただいた。

石田先生がいらして、千柿の作り方を教へてい

ただいた。この近くで一番多くお作りになつたあ

うちはやく八万こだとおっしゃつたのでびっくりした。

十二月二十三日

今日は皇太子殿下の御たんしん日で、お達のぼう年

會だ。午前中は寮で日記を書いてからこたつに當り

から講談社の本を讀んだりあみ物をしてゐた。

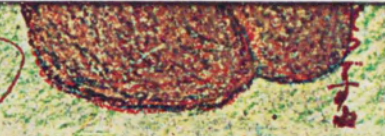


午後  
毛糸の  
世帯を  
同じく  
あつた  
と、お  
お物で  
夕食は  
の御食  
夕食は  
も、お  
さつた。  
座のお  
お話が  
と追水  
からう  
て先生  
た。とて  
少し目  
すぐ寝  
十二月  
今日は



めしと

していらした。



久志

の晩の  
食は  
が自分

へつ  
ったあ  
りした。

ほう年  
に當り  
た。

下會

午後は又こたつに當てあけ物をしたり追水さん  
毛糸の巻をほしえしたりした。おやうに追水さんのお  
母様が帰って来て下さったためたパン・米軍の右ゴレット  
同じく米軍のオレインカムをいたした。米國のだけ  
あてたのも甘くておいしかった。めたパンもめたためたか  
とておやうに食べた。それから又講談社を見たりあ  
け物をしたり夕食までずっとこたつに當ててゐた。

夕食はほう年會のごち走で、いねとさつまもち  
の御飯だった。

夕食後は寮であけ物をした。追水さんのお母様  
もゆっしょにこたつにおはりになってあけものをた  
さした。夜岩丸先生がいっしょにいらしたので寝る時孫様  
座のお話をしていたのだ。

お話をすんでから少しする  
と追水さんが起きて来て耳  
からうみが出て来たと言っ  
た先生に見ついていたので  
た。とてもめはいさうだっ  
た。少し目をさましてめたか  
すぐ寝てしまった。

十二月二十四日

今日は松達の新運びの番なので一時間





図工の時間に福光校の直をかりして、西尾  
寮へ行った。ふつうの一点よりもずっと重かった。  
二十束位積んで図書館の前まで引いて来た。  
そこから児童えつらん室の所をつき抜けて、  
炊事場までニメートル位づつ間を歩いて、並び  
レーにして薪を運んだ。

地理は山脈の集った所をお習ひした。そこを  
めぐる縣は長野だ。だから長野は寒いの  
ふことがわかった。算数も理科も自習だった。  
火鉢に居って福袋や歸る日の事を想像して  
話あつては、早くお正月がこないかなあと言  
てゐた。午後はずっとした

つに當って先生のプレゼン  
トを作った。廻り花っぱ  
いひろげてやつてゐた。今  
阿部先生が歸つていらし  
やたら大変だわ夫目玉  
たたひちやふね。なにと  
言つてゐた。夜はあや物

した。早くぐつぐつがあや上げられるといひんこ



なあに  
十二日  
今日は  
日本に  
あつて  
の床屋  
さんへ  
お書は  
寮へ歸  
番の来  
そのう  
う送  
あつて  
に床屋  
りも話  
西尾  
てその  
生もの  
セント



て、西尾  
なあと考えた。

十二月二十五日

今日は進ちゅう屋にとっては楽しいクリスマス  
日本にとつては思ひ出深い大正天皇祭だ。

それで授業の道具を持って来たが、休養にな  
った。寮へ歸つてから四年生は吉波さんのそば  
の床屋さんへ、私達は十一時頃から高木の床屋  
さんへ四人ずつ行った。私は晝食後になった。

お書は第三ぼう年會でぶりがあつた。急いで  
寮へ歸つて、床屋の用意をして高木さんへ行き順  
番の来うのを待ちながら、あみ物をしてゐた。

そのうちに二時が鳴って大正時代の流かう歌をほ  
う送した。明日もコロッケ今日もコロッケといふ歌も  
あつて食べたくなつてしまつた。三時を打つと一よ  
に床屋さんを出た。夜寮で、皆一つづつ歌を取った  
り、お話をしたり、**娯樂會**をした。机を三つ合はせ  
西尾寮式のことたつを作り、おうちの方もお呼びし  
て、その他におととや、福本さんもお呼びした。近先  
生もいらつした。茂木先生、柿内先生からのプレ  
ゼントは干柿。おうちの方からのプレゼントはあ  
んこ、きなこのついたおたんどだった。さあ、



くるといふ時岩丸先生もいらした。  
 茂木先生と柿内先生が月の砂はくをお歌  
 ひになるために障子をお開けになると森田  
 さんがちよこんとすわっていらした。さうして  
 森田さんにミズゆいぶし  
 をして下さいと言つても  
 へりくつばかり並べてな  
 かなかして下さらない  
 のでもどめしくなつてしま  
 った。どうして最後はお  
 正月はするからとあつし  
 やつて手品だった。一着後で福本さんがアメリ  
 かと日本とまぜたことばで歌めたいのをたまさ  
 かにとて面白かつた。それから片付けて就  
 床用意になった。岩丸先生は孫悟空のお話  
 をしていただいた。今日はとても楽しくゆめい  
 な一日だった。



十二月二十六日

午前中は、國史だけしかしなめた。  
 後は、寮でも風呂をたいた。萩原さんに

小包  
 いらし  
 ホッド  
 ていた  
 今東  
 それ  
 山崎  
 スを  
 夜は  
 岩丸  
 らし  
 夜寝  
 阿部  
 が話  
 又阿  
 しょ  
 十  
 國語  
 この前  
 の書



小包が来て、山崎さんにはお父様が面會  
いらした。おやつに山崎さんのお土産の  
ホドケーキとみかん、萩原さんの小包には  
いたせにちねいもあめをいたした。

今東京では食物がないのにとってもあつた。  
それをしてたき終る頃、出食用意になった。

山崎さんは今日持つて来て下さったオーバー  
スをはいて、学校へ行った。

夜はお風呂にはいった。

岩丸先生もはりに  
うしやうた。

夜寝てしばらくすると

阿部先生と茂木先生

が話していらした。

又阿部先生にお目玉をいたためないうちに

しようと思つた。

十二月二十七日

國語はばらの芽といふ所をお習ひした。

この前の俳句に出つた正岡しきといふ人  
の書いたのも二句あった。



アメリ  
をたま  
て就  
のお話  
くわい





お習字は自習で、火鉢に當てて筆をあたため、  
次のお裁縫を待った。三、四時間目につづけて  
お裁縫をした。私はえりぐりのしまつをした。  
糸が細くて針が太いのでとてもくけにくかった。  
午後は寮へ歸らず図書館に居た。少し柿内先  
生に講談社を讀んでいただいた。それから日  
記を書いて算数をした。

夕食の時如藤先生が起きていらつしやうで、ぜん  
くは祝ひに岩丸先生が明日東京へお立ちにな  
るので、二ち走った。

オヤオヒゲガナイ?

白米の御飯いかに  
つけた。夜はあみ  
物をした。おべん當袋  
をあむもありだ。  
寝る時、級友の人人と  
つらのをあんでいた。  
た。本宿にあんなことをしてはいけなうことだ  
と思った。



十二月二十八日

今日は成績會議で先生方がいらつしやうな  
ので、みんな図書館で自習だった。階上が六年

一はん  
二、三  
休が  
と、庫  
てか  
おそ  
午後  
なの  
た。ダ  
もつ  
った。  
いた  
た。甘  
それ  
ころ  
きた  
つ下  
ころ  
は、い  
もあ  
は、た  
にな



たため  
つけつ  
た。  
った。  
桶内先  
から日

一はんえつらん室が四五年兒童えつらん室が  
二三年だった。ストーブがはいつてゐるので部屋全  
体があたたまつてゐた。ちよつとでも廊下に出る  
と寒いのてなるたけ中に居た。日記を書い  
てからあつ物をした。時間のたつのがいつもより  
おそく思はれてしかたがなかつた。

て、ぜん  
ちにな

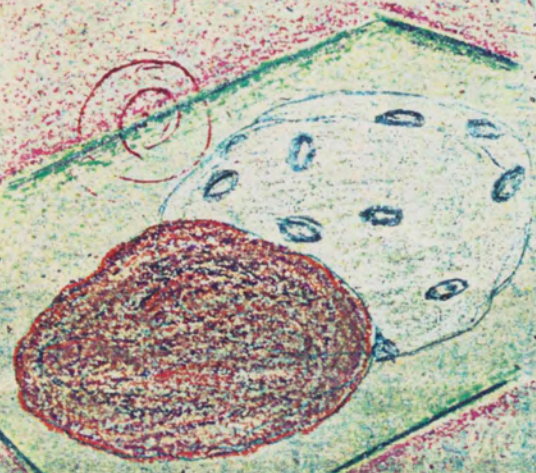
午後も雪が降つてゐたので外を歩くのが大変  
なので、図書館で自習をしてゐた。算數もし  
た。夕食後外へ出る。朝とは反對に雪が  
もつてゐてびちびちとしてとても歩きにくか  
つた。夜こたつに當りなめらいもある。いたた  
いた前田さんの方が下さっためんもいたた

た。甘くておいしかった。  
それといたたき終る  
ころ百合子さんがつ  
きたてのお餅を二つづ  
つ下さった。二つはあん  
ころ餅一つは黒豆の  
はいつたお餅でとて  
もおいしくてお腹が  
はった。お禮を言ひ口をゆすいで、就寝用意  
になった。いつもよりおそく九時だった。



こした

うない  
かた年





明日岩丸先生を送りにいらしゃるので先生も早くお寝せになったのでお話はやめた。又歸る日までをゆえたりお掃除を何回するかとめ、俳句を考へながら寝た。

十二月二十九日

今日は前田寮と學校にてお餅つきがあるのだ。男の先生も女の先生もとてもおいしくしゃうにもつくりしめる。

朝食後五六年で長ぐつを揃へておる人は阿久沢先生と一様に西尾寮から

前田寮へ薪を四五本づつ運んだ。

それは御飯をたぐのに使ふのだ。もう一度

運ばなければならぬかも知れないと先生が

おっしゃったのでがっかりしてゐると、もう

よいさうですぞとあつしたたのでありがたか

った。又雪の道を通つて図書館へ行った。

手先と足先がつかれたが体はほかほか

として来た。

少しストープに當つてから日記を書き始めた。

外で  
こゝ  
い  
雪が  
お合  
お餅  
つきの  
ろし  
で何  
先生  
した。



ので先  
めった  
を何回

が  
あ  
お

う  
あ  
め

二  
度

に先  
う  
もう

たか  
った  
か

か  
ほ

き  
始

外では雪が急にござしてゐるやに降  
つゝぬる。ストーブの丸い穴から吹雪がは  
いて来り寒ふつた。時々ばさばさとして屋根の  
雪が落ちて電線をゆりしつゝゐた。

お食事當番で炊事場へ行くに齋藤先生が  
お解つきをしてくらした。お食後に白ひつきた  
このお解を一つづつたたいた。及米川の時は、大根を  
ろしをつけたが、今度はちり味りようが足りないの  
で何もつけなかつたが、どうもあつた。

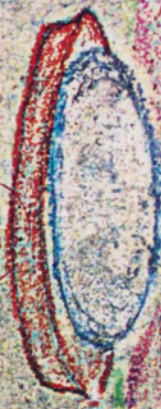
先生方はあつたが、いので、料理室でお食へにな  
つた。午後も図書館に居た。算数をしてから、  
あめ物をした。  
夕食後すぐ寮へかへつ  
た。柿内先生は下駄の  
はなを切れてはたしで  
寮へおかへりになった。  
こたつに當りながら藤  
原さんに小さく樂部をよ  
んでいた。

どうしてあめ物をした。





夜前田寮でついたお餅を見せつたたりた



十二月二十日

倉はお休みだが寮へ歸らず圖書館に居た

午前中は先づ日記を書いてからお裁縫

をした。高島さんに買けたないやうに一生

懸命にやった。お晝寝の時カレールがあった

この間のカレールよりもからくてこよりん

の粉でやうたやうな気がした。からめった

ので御飯を入れた。さうして又米川の最

後のカレールずぬぶんからめったわは、その

上お箸で持てる位どろんどろんだった

わね。などと話あった

三部六年の人も言つて

ゐた。午後はストーブ

に當つて少しあみ物

をした。それから高

島さんと平松さん



と羽根つ

て次に代

も暖かくた

から又圖書

のシツを結

四時半頃

来て下さ

げんを見

った。今日

かみ洗ひ

だと寒

を着て

もさうして

一年中の

すつもり

こすり

てさす

や足袋も

ると小林

しつしま

なつて又



たりた。

居た。

叔纒

一生

あった。

りえん

あった

の最

その

った

と、羽根つきをした。三回落したら代  
て次に代るまで、一人つきをしてねた。そ  
も暖かくなった。二時から又二十分休  
から又図書館へ行って午前中のつづき  
のシツを続けた。  
四時半頃になると、みそ口さんが呼びに  
来て下さった。夜歸ってからすぐお湯のか  
げんを見つてから一班的の始め六人からはい  
った。今日は一班も二班もかけ洗ひをした。  
かけ洗ひの時はだめ  
だと寒いので洗濯物  
を着てやった。おんな  
もさうしてやった。今年  
一年中のあかさを落  
すのもりでございし  
こすり牛まで、軽石  
でさすった。もんぺ  
や足袋も洗った。私がもう出ようとして、ね  
ると小林さんがきょつと言ったのでびっくり  
してしまった。雪の上へころがってどろんこに  
なつて又お風呂にはいった。





火が消えつしまつたのでばたばたさせ  
なから火をおこした。

上へあがり床を敷いてすぐ寝た。

阿部先生が御歌奉唱をなされてより  
とおっしゃったのでしなかつた。

みんなが上つてこないうちに寝た。又いつ  
ものやうに福袋には何かはいつてぬるだ  
らう早く来ないかなあと思つた。

十二月三十一日

今日で今年も終るのだ。ちつともさ  
ういふ氣がした。朝食後はそれやれ

きめられた掃除場所の大掃除をし

た。私達はいつもだつたらはくだけだ  
が今日はさう布がけをした。

窓のさんの所をさよくこすつた。よいよれ

のあめ、みたいのが出来た。

お湯で洗つたのでとてもあたたかかつた。

きれいになつてから手を洗つて、寮へ歸つ

た。さうしてお部屋をきれいにした。

くものすを落しはたきではたたたは

よりを落した。

ひ　あ　け　も　か　タ　リ　た　は　眞　て　た　り　な　に　よ　つ　た



たさせ  
てよい  
又いつ  
ぬるだ  
もさ  
れやれ  
けだ  
れよれ  
めった  
へ歸っ  
た。  
たほ  
ひな菊白百合すみれの順にやうた  
お晝まで二十分位火鉢に當った  
お晝食後すぐ寮へ歸り日記をつ  
けたその前に小包を開いた。福袋  
もはいつてぬた一番に來たので早く五日  
が來たが甘あはれ思ひだ。  
夕食の時、今年最後の晩餐にこしら  
ひまん飯をいた。たいた今日のものが  
た。夜日記を書  
いた阿部先生  
はお酒を飲み  
眞赤な顔をし  
てびわをたさ  
たりしぎんを  
なさったり本當  
によつていらし  
った。私は早く明日にならなにか





あと思った。今年は終戦にいたり。  
 澤山の人々が空しゅうのために家をな  
 くしたりしていやだったが来年はお  
 うちには歸れるじきうといひ年だち  
 うと思った。 いふふいふいふ

最後までいふ書けり。たね  
 今年も一層頑張りやうやうね  
 も少し感想も入小やう  
 するく。日記にのこす。

21.1.16



枯枝に白く花咲く十二月

木の葉落ちる後を追ひつめ雪の花

授業中をどうも見れば雪あちち

ふぶきたなめまんとにくるまり雪のゆち

雪ふるを待ちこがれつつ空を見る

ジープ行くすとさつづりてやじんま子